

令和 8 年 7 月

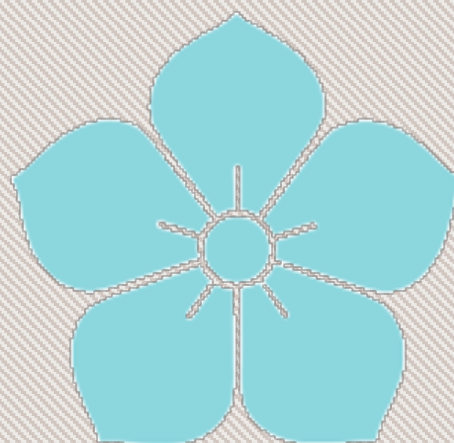
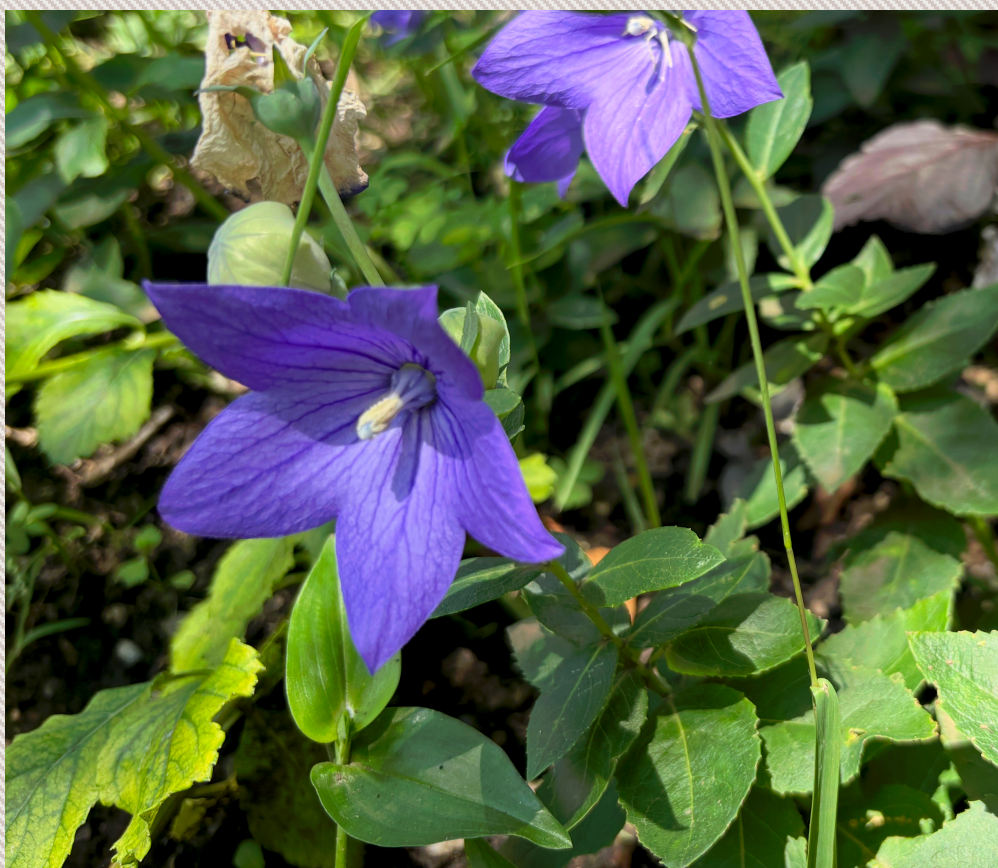
薬草園だより

記録的な暑さが連日報じられる本格的な夏になりましたが、強い日差しにも負けず元気に花を咲かせている薬草園の植物を紹介していきます。

紫色の花が目をはく**キキョウ** (*Platycodon grandiflorus*) はキキョウ科キキョウ属に分類される多年生草本で秋の七草の一つです。属名の platys はギリシャ語の広い、kodon は鐘を意味しており、花の形に因みます。

薬用途としての**キキョウ**は根を用い、日本で生薬として使用されるキキョウは中国産が使用されています。その成分には、トリテルペンサポニンを数多く含む他、イヌリン（ヒトが消化できない多糖の一種で、水溶性食物繊維として働く）の存在が知られます。**桔梗根（キキョウコン）**は、肺の呼吸運動をゆっくり大きくすることで、肺の気や津液の流れを円滑にし、胸部の支えをスッキリさせる作用を持ち、咳を鎮め、痰を除く作用から呼吸器疾患に、また膿を出す働きに優れるため化膿性の皮膚疾患や咽頭炎、中耳炎に用いられます。

* 秋の七草：オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギ（山上憶良が詠んだ万葉集収載の歌が由来とされる）



桔梗は更に吉と読めることから、明智光秀、山県昌景、太田道灌、加藤清正など、キキョウを図案化した家紋を使う武将が多くいました。

水色桔梗は明智光秀の家紋として有名です。

ウスベニタチアオイ (*Althaea officinalis*) はアオイ科の多年草で別名をビロードアオイと言います。原産地はヨーロッパ、西アジアから北アフリカ。高さ 1.5 mほどに成長し、夏に薄いピンク色の花をつけます。属名のギリシャ語 *altheo* は治療する、を意味しており、*officinalis* は薬用を表しています。

その根には粘液質が含まれており、古代エジプト時代には、根を粉末状にしたものを蜂みつと混ぜて、咳や喉の痛みを和らげるためのトローチとしたとする記録がみられるそうです。

ところで、本植物の英名は **marshmallow** (沼地に生えるアオイ科植物) といいます。19世紀のフランスの菓子職人が、本植物の根を水と混ぜて得られるあめ状の液体に砂糖、卵白を加え泡立ててお菓子としたのが、お菓子としてのマシュマロの始まりとされています。もっとも現在ではウスベニタチアオイの根の代わりに、ゼラチンが使われるようです。



ウスベニタチアオイ

ウスベニタチアオイと似た植物の**ウスベニアオイ** (*Malva sylvestris*) はアオイ科の二年草で原産地はヨーロッパ。日本でも帰化植物として見られます。高さ 70-80 cmほどに成長し、夏に赤紫色または白色の花をつけます。

この植物の花は、お湯を注ぐと青い色が出るハーブティーとして利用されます。レモンなどの酸を加えると、紅茶にレモンを浮かべた時のように、変色する様が観察できることも人気があります。



ウスベニアオイ